



学校だより ウルムス

～友達を思いやり、友達とひびき合う心～

学校ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamariyaminami/>

平成28年4月28日

横浜市立釜利谷南小学校

校長 鈴木 秀一

学習の材としての「ひと」「もの」「こと」

副校長 内海 司馬

釜利谷南小学校に赴任してきたの第一印象は、花の多い学校、そしてまちだということです。今年度は4月5日の入学式を待っていたかのように桜が満開の中、学校生活がスタートしました。いろいろな花が校内に咲いています。金沢区の花「ぼたん」もりっぱに咲いています。レンギョウ、ミモザ、藤、ツツジなども満開を迎えています。ウルムスガーデンも三色すみれやピンク・紫の花が咲き、やまぼうしは新芽を吹いています。

新しい学校に赴任すると、地域探検をすることにしています。釜利谷小川アメニティというすてきな遊歩道を見つけました。藤、レンギョウ、ツツジ、花菖蒲などなど今は数えきれないほどの花が咲いています。この地域探検は学級担任だった頃からの習慣です。探検をしながら学習に使えるものはないかを探しています。

この花が咲くには、手入れする人がいることを忘れてはならないでしょう。ウルムスガーデンボランティアの方は、先日お会いしたときに次の植栽計画をお持ちのようでした。ぼたんの花壇のところは、学校の技術員さんが草取りをしています。図書室の道路側に咲いているミモザに水をやっている先生と話したところ、ここは雨が当たらないので水やりが必要ということでした。遊歩道のところは地域の方が朝早くから手入れをなさっていました。

学校の教育課程に則って指導計画が立てられていきますが、子どもにとって魅力的な学習にするためには学校・地域の材をどう使っていくかも大きなポイントの一つだと思います。花一つとっても、生活科・理科で扱えるだけでなく、花づくりにかかわってくださっている学校・地域・PTAの方々の活動については、社会科や総合的な学習の時間の材となります。また、「こと」で考えると地域の行事などは、生きた学習材となると思います。

わたしも一日も早くこの釜利谷のまちのことを知り、先生方に紹介できるぐらいになっていきたいと考えています。

これからも子どもたちのために、学校に対してご支援、ご協力をお願いいたします。

